

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	短期大学の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウシツ コウセイガクイン 学校法人 光星学院									
フリガナ大学の名称	ハチノヘガクインダクコウダイガクブ (Hachinohegakuin Junior College)									
大学本部の位置	青森県八戸市大字美保野13番384号									
大学の目的	カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を受け、深い専門の学術を探求せしめ、正しい道徳観と高い知性を有する民主主義的にして平和を愛好する人材を育成する。									
新設学部等の目的	介護に関する基礎的・基本的な知識と能力を介護の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、介護の諸活動を主体的かつ合理的に行う能力と態度を育てることにより、福祉社会に貢献できる人材を育成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	介護福祉学科 [Department of social and care work]	2年	40人	—年次人	80人	短期大学士（介護福祉学）	平成31年4月第1年次	青森県八戸市大字美保野13番384号		
	計	2	40	—	80	—	—	—		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	介護福祉学科	講義	演習	実験・実習	計	94 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	介護福祉学科		教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
				2人 (2)	1人 (1)	2人 (2)	3人 (2)	8人 (8)	0人 (0)	20人 (16)
		計		2 (2)	1 (1)	2 (2)	3 (2)	8 (8)	0 (0)	20 (16)
	既設	幼児保育学科		6 (6)	2 (2)	6 (6)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	14 (14)
		計		6 (6)	2 (2)	6 (6)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	14 (14)
合計			8 (8)	3 (3)	8 (8)	4 (3)	23 (23)	0 (0)	34 (30)	
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計		
	事務職員			14 (14)		0 (0)		14 (14)		
	技術職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員			2 (2)		0 (0)		2 (2)		
	その他の職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計			16 (16)		0 (0)		16 (16)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	10,786 m ²	3,000 m ²	14,146 m ²	27,932 m ²	大学、専攻科と共用					
	運 動 場 用 地	13,133 m ²	0 m ²	15,000 m ²	28,133 m ²	大学 (14,146m ²)					
	小 計	23,919 m ²	3,000 m ²	29,146 m ²	56,065 m ²	専攻科 (3,000m ²)					
	そ の 他	4,572 m ²	0 m ²	35,484 m ²	40,056 m ²						
合 計	28,491 m ²	3,000 m ²	64,630 m ²	96,121 m ²							
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	高校と共用 (専攻科1・2階) 794.40m ² 八戸学院光星高等学校専攻 科 収容定員：200名 青森県の基準面積： 1,680m ²					
		717.42 m ² (717.42 m ²)	14063.55 m ² (14,063.55 m ²)	8921.54 m ² (8,921.54 m ²)	23,702.51 m ² (23,702.51 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 (八戸学院大学、光星高等学校専攻科と共有)					
	16 室	15 室	4 室	1 室 (補助職員 3人)	0 室 (補助職員 0人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数							
		介護福祉学科		7 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
	介護福祉学科	2,851 [31] (2,611 [31])	6 [0] (6 [0])	0 [0] (0 [0])	38 (38)	254 (254)	4 (4)				
	計	2,851 [31] (2,611 [31])	6 [0] (6 [0])	0 [0] (0 [0])	38 (38)	254 (254)	4 (4)				
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体 (八戸学院大学と共有)					
		1,646.62 m ²	188 席	約195,000 冊							
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体						
		2,578.29 m ²	運動場、テニスコート								
経 費 積 累 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教員1人当たり研究等について、助教は120千円	
		教員1人当たり研究費等		180千円	180千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	共同研究費等		2,000千円	2,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	図書購入費	0千円	500千円	500千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	申請学部学科全体 図書費には電子ジャーナル・データ ベースの整備費(運用コストを含む) を含む。	
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
	1,070千円	840千円	－千円	－千円	－千円	－千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入、事業収入									
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 八戸学院大学短期大学部、八戸学院大学										
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地		
	八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科	2	100	－	200	短期大学士(幼児保育学)	0.92	昭和46年度	青森県八戸市 大字美保野13番384 号		
	ライフデザイン学科	2	－	－	－	短期大学士(ライフデザイン学)	－	平成18年度			
	看護学科	3	－	－	－	短期大学士(看護学)	－	平成21年度			
	八戸学院大学 ビジネス学部ビジネス学科	4	－	－	240	学士(ビジネス学)	－	昭和56年度	青森県八戸市 大字美保野13番98 号		
	地域経営学部地域経営学科	4	80	－	80	学士(地域経営学)	0.87	平成30年度			
健康医療学部人間健康学科	4	80	－	320	学士(人間健康学)	1.11	平成17年度				
健康医療学部看護学科	4	80	－	160	学士(看護学)	0.9	平成28年度				
附属施設の概要	該当なし										

教育課程等の概要														
(介護福祉学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	学習力の養成	初年次セミナー (学習の目的と技術)	1前	1			○			2	1	1		
		初年次セミナー (建学の精神と理念)	1前	1			○							兼1
	思考力の養成	情報処理法 (情報の処理と活用)	1後	1				○						兼1
		問題解決法 (問題の発見と解決)	1後	1				○		1				
	表現力の養成	日本語 (会話・文章)	1前	1				○						兼1
		英語 (会話・文章)	1前	1				○						兼1
	人間力の養成	自己管理と社会規範	1後	1			○							兼1
		他者理解と対人関係	2前	1			○				1			
		地域活動と社会貢献	2後	1			○			1	1			
	社会力の養成	社会的・職業的自立	2前	1			○							兼1
	人間と社会の理解	生物と生命	1後		2		○							兼1
		家族と福祉	1後		2		○			2				
		法律と人権	1前		2		○			1				
		政治と経済	1後		2		○							兼1
		社会と制度	2前		2		○			1				
		健康と運動	1前		2		○					1		
		レクリエーション	2前		2			○				1		
小計 (17科目)		—	10	14	0		—		2	1	2		兼8	
専門科目	専門基礎科目	人間の理解	人間の尊厳と自立	1前	2			○				1		
		人間関係とコミュニケーション	1前	2			○							兼1
	社会の理解	社会の理解 I	1前	2			○			2				
		社会の理解 II	1後	2			○			2				
	介護の基本	介護の基本 I	1前	4			○				1	2		
		介護の基本 II	1前	4			○				1	2		
		介護の基本 III	2前	4			○					2		
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術 I	1後	1				○						兼1
		コミュニケーション技術 II	2前	1				○				1		
	生活支援技術	生活支援技術 I	1前	2				○						兼2
		生活支援技術 II	1前	2				○						兼2
		生活支援技術 III	1後	2				○						兼1
		生活支援技術 IV	2前	2				○				1		兼1
		生活支援技術 V	2後	2				○				1		
	介護過程	介護過程 I	1後	2				○			1			
		介護過程 II	2前	2				○			1			
		介護過程 III	2後	1				○			1			
	介護総合演習	介護総合演習 I	1前	1				○				2		
		介護総合演習 II	1後	1				○				2		
		介護総合演習 III	2前	1				○					2	
介護総合演習 IV		2後	1				○					2		
介護実習	介護実習 I	1前	2					○		1	2			
	介護実習 II	1前	2					○		1	2			
	介護実習 III	1後	2					○		1	2			
	介護実習 IV	2通	4					○				2		
専門展開科目	こころからのしくみ	発達と老化の理解 I	1前	2			○							兼1
		発達と老化の理解 II	1後	2			○							兼1
		認知症の理解 I	1前	2			○							兼1
		認知症の理解 II	1後	2			○				1			
		障害の理解 I	1前	2			○							兼1
		障害の理解 II	1後	2			○							兼1
		こころからのしくみ I	1前	2			○							兼1
		こころからのしくみ II	1後	2			○							兼1
	こころからのしくみ III	2前	2			○					1			
	こころからのしくみ IV	2前	2			○					1			
	医療的ケア	医療的ケア I	1後	2			○							兼1
		医療的ケア II	2前	2			○					1		
		医療的ケア III	2前	1				○				1		
小計 (38科目)		—	76	0	0		—		2	1	2	3	兼13	
合計 (55科目)		—	86	14	0		—		2	1	2	3	兼20	

学位又は称号	短期大学士（介護福祉学）	学位又は学科の分野	社会福祉学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
・教養科目（17科目）：必修科目10単位、選択科目8単位以上 ・専門教育科目（38科目） 専門基礎科目（4科目）：必修科目8単位 専門基幹科目（21科目）：必修科目43単位 専門展開科目（13科目）：必修科目25単位 合 計：必修科目86単位、選択科目8単位以上 合計94単位以上			1 学年の学期区分	2学期
			1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要			
(介護福祉学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学習力の養成	初年次セミナー (学習の目的と技術)	「自ら考え、調べ、論ずること」これは学問研究の出発点であると共に、長い人生を送る上で不可欠な「教養」という知的基礎体力を身につけることにもつながる。そこで、本講義では学習の目的を明らかにするとともに、グループを編成し「自ら考え、調べ、論ずること」の習得を目指し、問題意識の喚起、具体的な問題発見に始まり、問題解決に至るまでに必要とされる様々な学問的・知的作業のためのスキルを実践的に学習する。	
	初年次セミナー (建学の精神と理念)	現代の日本人にとっては、宗教は馴染みにくいものと感じられるかもしれないが、実際のところ、社会や日常生活の多くの場面に、伝統的宗教の影響や特有の宗教観を見ることができる。様々な宗教の信仰構造を理解しておくことは、現代の国際社会の諸問題を読み解くための基礎的教養となる。本講義では、八戸大学の建学の精神「神を敬し、人を愛する」の由来を導入とし、現代宗教学の主な成果を見たとうえで、中東に端を発するユダヤ教、キリスト教、イスラム教の成立史と信仰構造の特性を学ぶ。	
思考力の養成	情報処理法	今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。	
	問題解決法 (問題の発見と解決)	日常生活において、人は大小に様々な問題を抱えながら生きている。問題は明確な場合、意識化できていない場合において解決へのプロセス、その技術は様々ではあるが、社会生活を営む上で問題解決能力を身に付けておくことで、問題を効率的に解決し、より良い状況を作り出すことができる。本講義では問題解決に必要なプロセス、技能の講義及び、ケーススタディを通して実践的に問題解決プロセスを体感し学習する。	
表現力の養成	日本語	一人称で表現することにより、自己の感情・考えを的確にすることによって、他者との違いがわかり、グループワークによる相互添削をすることにより的確な語彙で表現することを学習する。	
	英語	この科目は、第一段階として、基本的な英語力とコミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には「聞く」「話す」「読む」「書く」を反復練習することによって、総合的な英語能力の向上をはかる。第二段階として、応用的な英語力とコミュニケーション能力の向上、特に「英語を話す」能力の向上を目指す。授業では、ペアでの学習やグループ学習などの実践的な相互コミュニケーション活動を積極的に取り入れる。	
人間力の養成	自己管理と社会規範	利用者の主体的な自己実現への援助をする専門職である介護福祉士は、専門職としての価値と倫理を利用者に担保しなければならない。専門職の行動規範である介護福祉士倫理綱領を理解し、自己の人間観、人権感覚、福祉観、行動規範と照らし合わせていく。また自己の行動実践は、専門職としての価値観、倫理観に基づいた行動と一致しているかを介護実習を振り返りながら考察していく。更に人権を尊重し、利用者を主体とした介護過程の展開とはどうあるべきか考察する。	
	他者理解と対人関係	人は生きる上で「自分」だけで「生存」するのではなく、「他者」と共に労働に動かし、共に寝食を過ごし、そして共に喜びや悲しみを享受することで社会的な「生活」を営むことができる。「他者」と向き合い、対人関係を築き上げることは重要な社会的な行為である。個人レベル、社会レベル(集団、組織、国家、文化)にある様々なシステムレベルのコミュニケーションについて学習し、主体的に対人関係を構築できる力を身につけることを目的とする。	
	地域活動と社会貢献	社会貢献は、社会のために力を尽くすこと、つまり団体・個人を問わず初めから社会に資することを目的として行われる活動であり、地域活動は社会貢献の理念をもって社会福祉・教育・災害など様々な分野において活動していくことである。社会貢献の本質や地域活動の実際を講義内で展開していくとともに、学生自ら地域課題を明らかにし、「何ができるのか」を考え「新たな活動を創造する」また「活動に参加する」体験(ボランティア活動など)を通して学びを深めていくものである。	
社会力の養成	社会的・職業的自立	本講義は、専門職者として働くことを通して、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場と役割との関連を踏まえ、主体的にキャリア形成する力を養うことを目指すものである。また現代社会における地域及び家族や家庭の変化を踏まえつつ、自らのライフステージを様々な社会資源を適切に選択・活用し、創造していくことができるよう学びを深めるものである。	

人間と社会の理解	生物と生命	人々の生活を支援する専門職である介護職には基本理念として生命への畏敬の念が重要である。また、介護の対象となる人には一人ひとり違った価値観・人生観の上で日々の暮らしが営まれている。この授業では生命誕生からいのちを見つめ、様々な人生を歩んでいる人達を理解・受容し、対象者とともに一人ひとりの生活を創造するための広い視野を養うための学習をする。		
	家族と福祉	都市化、過疎化、少子高齢化、一人親家族の増大、非婚者の増大などの中で、家族の役割や機能は大きく変化している。このような家族の変容と現状について各種統計資料を活用して検討するとともに、現在の家族福祉諸制度の状況を確認し、貧困、虐待や、社会不適応などの事例をもとにその内容・役割・機能を学ぶ。また、人口減少社会の中での家族福祉関係諸制度のあり方について考察を深め、家族と福祉の現状と今後の方向について説明できるようにする。		
	法律と人権	憲法、民法、行政法を中心に、現代社会において法律が果たしている役割や機能について、基礎的事項を概観する。また、虐待、障害、判断能力の欠如、貧困など、現代において社会問題となっている事項について、事例を提示しながら、このような人々の人権が法的にどのように保護され支援されているか、支援するための制度利用の具体的な仕組みがどうなっているかなどを検討する。社会的弱者といわれる方々の人権が社会的にどのような法的仕組みで守られているか、さらに現状の課題は何かなどについて、理解し説明できるようにする。		
	政治と経済	本講義は政治学・経済学の基礎的な知識を修得した上で、現代日本にみられる政治及び経済の変容について理解する。政治学では民主的な政治思想の発展や政治体制、また国会・内閣・裁判所の役割や国民の政治への参加、地方自治と政党政治の展開などを講義する。また経済学では経済社会の仕組みと資本主義経済の変化、物価・国民所得と経済成長、財政の機能と租税、貨幣、金融などに加え、労働問題と労働市場・労使関係の変化などを理解する。様々な観点から学びを深め、政治的、経済的な諸問題について明確な根拠をもって論述することができることを目的とする。		
	社会と制度	近年の社会変動について理解するとともに、社会変動に対応して「セーフティネット」としての社会保障制度が、高度経済成長期以降、どのように展開されてきたかを概観する。特にも、「介護」について、従来は主に家族の役割や機能と考えられてきた分野が、どのような社会的背景や社会的目的のもとに「保険」という仕組みを採用することとなったか、また、制度の変化により、新たな制度が家族や地域社会にどのような影響を及ぼしているかについて学びを深め、社会の変化と制度の変化の関連について、説明できるようにする。		
	健康と運動	社会の変化に伴い運動量が減少傾向にある現代においては、心身共に健全に保持できる社会の実現が臨まれる環境ともいえる。また、日常生活での運動の実践は体力の保持増進、ストレス解消、生活習慣病の予防及び改善が期待できる。 本講義では、人間の成長と老化による身体運動能力の変化、生活習慣による健康阻害のリスクと運動実践による健康の改善、わが国の国民健康づくり対策やメンタルヘルスについて学び、人間が健康を保持・増進できるための適切な運動に対する知識を習得する。		
	レクリエーション	現代社会において人々のライフスタイルは多様化しているが、人それぞれに家事や労働だけではなく「余暇」の過ごし方も重要になってきている。人は「遊び」や「楽しみ」を味わえる時間と活動を生活に組み込みながら「より豊かな人生」を送ろうとする。 レクリエーションの意義を理解し、レクリエーションが個人、集団、地域等への果たす役割について学ぶ。また、レクリエーション活動を展開する支援方法について学ぶ。		
専門基幹科目	人間の理解	人間の尊厳と自立	人間の理解を基礎として、利用者に対する人間としての尊厳の保持について理解する。また、利用者が自立した生活が送れるように支援することの必要性を理解する。 そして、利用者への権利擁護の視点と専門職としての基盤となる倫理観を学習し、介護実践の場面で倫理的な課題について対応するための基礎的能力を身につけることで介護福祉士として総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。	
		人間関係とコミュニケーション	良好な人間関係を築くためには一定以上のコミュニケーション能力が求められる。コミュニケーションの基本は、自分と相手の情報の共有にある。そこで、自分が伝えたい情報や意思を相手に伝える事ができ、相手が伝えたい情報や意思を受け取る能力を身につけるため、対人援助における話すことと聴くことの意味を学習する。またまたロールプレイやプレゼンテーションにおいて「論理的にわかりやすく話す」「積極的に聴く」こと体験し、実践的に活用できるようにする。	
	社会の理解	社会の理解Ⅰ	介護福祉士として職務を行う上で必要となる、サービス利用主体の生活や社会背景を理解すること、サービス利用に関わる主な法制度の仕組みを習得することを基本目的とする。社会の理解Ⅰでは、個人を構成員とする家族、地域社会、参加する組織や集団が個人とどのようにつながっているかを考え、データをもとに変化するライフスタイルについて学ぶことにより生活支援や福祉の体系を理解する。また、社会保障制度の概要を説明できるようにする。	
		社会の理解Ⅱ	介護福祉士として職務を行う上で必要となる、サービス利用主体の生活や社会背景を理解すること、サービス利用に関わる主な法制度の仕組みを習得することを基本目的とする。社会の理解Ⅱでは、介護保険制度や障害者支援制度など、介護の仕事に携わるうえでの基本的な仕組みやその運用について理解し説明できるようにする。また、保健医療などの介護実践に必要な関連分野についての理解を深め、説明できるようにする。	

介護の基本	介護の基本Ⅰ	介護の歴史を踏まえ、複雑化・多様化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く社会状況を理解する。また地域・施設・在宅における場や場面、状況に応じた介護福祉士の役割と機能を明確にし、自ら専門職として求められる価値観や倫理観を理解するとともに、その能力や態度を身に付けるための基礎的な学習とする。	
	介護の基本Ⅱ	介護を必要とする人の生活を支える観点から必要なフォーマル、インフォーマルなサービスを理解する。特に介護保険サービスの種類やサービスの報酬、算定基準また介護保険外サービスについても理解を深め、サービスの提供の場の特徴を理解する。介護を必要とする人の全人的な理解を深めるため、ICFの視点に基づいたアセスメントツールを理解し、活用できるようにする。また本人のストレングスに着目した介護実践ができるようケアマネジメントプロセスを理解する。アセスメントー介護計画立案ーモニタリング・評価を事例を使って実践的に学び、更に自ら作成した介護計画が、利用者の自立支援につながっているか検証することで「自立」の本質的理解を深める。	
	介護の基本Ⅲ	介護現場において、安全を確保するための知識・技術、事故防止や安全の対策、感染対策、緊急時対応、介後従事者の健康管理等について施設や事業等での具体例・実習体験をもとに展開し、安全の確保とリスクマネジメント及びその必要性について理解する。また介護現場における多職種連携の必要性とチームケアを実践するための専門職間の相互理解についても実習体験を振り返りながら学習する。	
コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	さまざまな介護場面において援助の関係を作るためには利用者家族・他の多職種との専門的コミュニケーションが必要とされる。そのために介護におけるコミュニケーションの基本、信頼関係における基礎的技法、介護福祉におけるコミュニケーションの役割と機能等を学習する。	
	コミュニケーション技術Ⅱ	利用者の特性に応じたコミュニケーションを理解し、ロールプレイングのディスカッションを通して介護におけるコミュニケーションのあり方を考える。また、介護のかかわる多職種とのチームとのコミュニケーションの意義を理解し、記述・文書によるコミュニケーションの意義についても理解する。	
生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	<p>学生の持っている生活観（生活背景・生活史）から利用者の生活を理解する。身じたくという具体的な生活支援の場面で、課題の個性や、その自立に向けた支援について学習する。</p> <p>移動の意義、目的、利用者の移動についてのアセスメントと安全で的確な移動・移乗の技法を習得するとともに利用者の状態・状況に応じた移動の留意点を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (19 聖前 真紀／8回)</p> <p>学生自身の生活観と利用者の「生活」、見守りから見取りまでの生活支援に関する技能、利用者の生活状況に合わせた自立に向けた身支度の介助技法。</p> <p>(20 竹ヶ原 仁／7回)</p> <p>移動の意義・目的、場面に応じた安全で的確な移動技術、自立に向けた移動とその支援の捉え方。</p>	オムニバス方式
	生活支援技術Ⅱ	<p>健康の維持・増進の為の食事の意義と目的を考える。栄養と食事の基礎知識について学習し、特に身体機能低下や咀嚼・嚥下障害・認知障害等の食事介護が必要とする利用者の状態に応じた適切な食事介助の技法を演習でシミュレーションしながら学習する。また、食後の口腔ケアの意義について理解を深め、演習を通して利用者の身体状態・状況に応じた口腔ケアに関する技能を習得する。</p> <p>高齢期に特徴的な病気とその病気を予防、改善するための食事内容について理解する。学生自らメニューを考案し、調理、試食することで体験的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (21 向井 照美／10回)</p> <p>食事の意義と目的、身体機能の低下や咀嚼・嚥下障害、認知障害などの状態に応じた適切な食事介助の技法、口腔ケアの意義とその可能性、口腔ケアの技法、自立に向けた家事の介助技能</p> <p>(8 佐藤千恵子／5回)</p> <p>高齢期に特徴的な疾患とその症状と食事のコントロール、病気を予防、改善する栄養と食事、糖尿病、高脂血症、高血圧、腎臓病などを改善するメニューの考案、調理、試食</p>	オムニバス方式
	生活支援技術Ⅲ	居住環境においてどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出して心地よい安心できる生活の場づくりとそれに適した支援技術を学習し、実施できる能力を養う。	

専門 基幹 科目	生活支援技術Ⅳ	<p>自力での排泄が困難になっている人たちに、その行為だけでなく心理面にも配慮した支援を行うことが大切である。排泄の一連の動作で、実践的に学習するとともに心理面に配慮したより自立に向けた排泄について考え、実践できる技術を身につける。さらに排泄に関する福祉用具を活用した援助方法についても、演習を通して学習する。</p> <p>楽しみとなる入浴とその支援について学ぶ。入浴・清潔保持の身体的・心理的・社会的意義を理解し、その援助の方法や工夫について、利用者を含めたチームで実践できるよう学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (7 鈴木 絵美／5回) 排泄の一連の過程における動作確認と動作や状態に応じた援助技法、自立に向けた排泄動作の獲得とそれに向けた心理的サポート、排泄動作をサポートするための福祉用具やその活用方法</p> <p>(22 矢神 泰庸／10回) 入浴、清潔保持に関する身体的・心理的・社会的意義、状態や環境に応じた入浴、清潔保持の援助技術と工夫、チームケアの重要性</p>	オムニバス方式
	生活支援技術Ⅴ	<p>安楽な睡眠の願いが果たされない高齢者や障害者の生理、心理を十分に理解する。また、利用者の心身の状態・状況に応じ、睡眠のリズム、不眠の原因、安眠のための環境を整える。人生の終末期の意義を考え、死生観を鍛える。</p> <p>また、個別の利用者の終末期を理解し、QOLを高める身体・生活援助やコミュニケーション技術を身につける。チームアプローチの中で介護福祉士の役割を自覚し、援助と連携できる能力を養い支援技術を習得する。</p>	
専門 科目	介護過程Ⅰ	<p>介護実践における介護過程の意義を理解する。また介護過程を展開するためのプロセスを細分化し、専門的な視点と実践に向けた技術を習得する。根拠に基づく介護実践に向けた思考過程を展開するため、まず介護過程Ⅰでは、専門職者としての確認視点を身に付け、利用者の全人的な理解と課題分析につなげる技能を習得する。</p>	
	介護過程Ⅱ	<p>介護実践を行うためには、アセスメントから評価までの介護過程が不可欠である。まずICFの視点を活用したアセスメント(情報収集と課題分析)の思考プロセスを習得し、視覚化する技能を身に付ける。また、計画の立案につながる計画書の作成手法、多様なニーズに対応しサービスにつなげるための資源や環境の理解も深める。更に実践及び評価の視点と方法も学習することで一連の過程を理解し、実習施設や実践において活用することができる技能を身に付ける。</p>	
	介護過程Ⅲ	<p>尊厳保持や自立へ向けた援助を基本に、本人やその家族のニーズに照らした介護過程の展開ができる力を身につける。利用者が当たり前前の生活が送れるよう自立支援に沿った介護計画を立案し、生活の場に応じた介護実践を継続的に行うためには、医療・介護との連携、社会資源の活用や協働が必要不可欠である。事例を通して、終末期における介護など様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を学習する中で、多職種連携の意義や必要性、チームケアを実践するための具体的な技法などを習得する。</p>	
介護 総合 演習	介護総合演習Ⅰ	<p>学内で学んだ基本的な知識・技術が介護実習で活かされるよう、実習配属先の施設種別や事業概要、職員の業務内容について理解し、介護福祉士に求められる役割・機能について理解する。</p> <p>また、様々なニーズを持つ利用者との人間関係・信頼関係の構築のためのコミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。</p>	
	介護総合演習Ⅱ	<p>介護実習で利用者との関わり方や、チームケアの介護実践を行ううえで必要な実習施設の職員との円滑なコミュニケーションの知識・技術を習得する。そして、対象となる利用者の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護実践について、アセスメントの重要性を理解する。実習記録の書き方、それまでの学習や介護実習での経験・振り返りを通して、介護実践に必要な観察力を養う。</p>	
	介護総合演習Ⅲ	<p>介護実習Ⅱでの一連の介護過程の展開を利用者の状態に照らし合わせて評価、考察し、介護計画を修正することができる。介護実習で主体的に行動できるようにする。根拠をもって介護実践ができるようにする。</p>	
	介護総合演習Ⅳ	<p>事例研究や発表を通して、自己の提供する介護について利用者や家族、他職種に対して論理的な説明ができる必要性を理解する。また、介護の実践的改善につながる問題解決法の習得の必要性についても理解する。</p>	
	介護実習Ⅰ	<p>訪問介護、通所介護サービス利用者の生活の形態・介護内容を理解して、利用者が必要とされる介護の基礎的な知識・技術を業務の実践について観察を通して学習する。利用者や家族とのかかわりを通してコミュニケーションの基礎的な能力や利用者や家族との間の関係性を理解し、利用者の生活リズムやニーズを学習する。そして、施設概要と職員の業務内容を学習する。</p>	

介護実習	介護実習Ⅱ	認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護サービス利用者の生活の形態・介護内容を理解して、利用者に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を業務の実際について学習する。利用者とのかわりを通して利用者の生活リズムやニーズを学習し、利用者主体の生活を地域で継続するための介護過程と地域とのつながりを学習する。そして、施設概要と職員業務内容を学習する。	
	介護実習Ⅲ	障害者支援施設の利用者の生活の形態・介護内容を理解し、利用者に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を体験的に学習する。利用者とのかわりを通して利用者の生活リズムやニーズを学習し、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。また、介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	
	介護実習Ⅳ	介護老人福祉施設に入所する利用者の生活リズムやニーズを学習し、安全管理の知識・技術を留意した介護実践を行う。また、利用者主体の生活の実現に向けて、多職種との協働の中でチームケアを実践するためのコミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得し、利用者の情報収集・介護計画の立案と実践するまでの体験と、これまでの各領域での学びを統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)の各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病など、生活に必要な支援をするために必要な知識を習得する。	
	発達と老化の理解Ⅱ	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾患とその症状、生活への影響、健康の維持・増進、予防を含め、生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する。	
	認知症の理解Ⅰ	認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基礎的な知識を身に付ける。原因となる疾患、中核症状・周辺症状を理解し、それらが及ぼす心身の変化、日常生活への影響、支える家族の心の変化や生活面への影響などを学習する。	
	認知症の理解Ⅱ	認知症ケアの理念と視点を理解し、尊厳ある一人の人として尊重し関わるための技能を身に付ける。事例を活用しパーソン・センタード・ケアの考え方を基盤としたアプローチを実践的に学習する。また本人ができることに着目し・本人の人生を豊かにするためには何ができるかを考え、社会資源の活用、支援のあり方、チームケア、地域社会や社会制度に対する働きかけなど、多角的な支援について理解を深める。	
	障害の理解Ⅰ	障害者福祉全般に通底するノーマライゼーションの考え方を理解するため、障害の概念や障害者福祉の基本理念、制度の歴史の変遷などを学習する。また、肢体不自由、内部障害、視・聴覚障害、言語障害、発達障害、精神障害など、それぞれの障害の定義や原因のほか、障害を持つ人の心身機能と生活に関する基礎的な知識を学習する。	
	障害の理解Ⅱ	障害の捉え方や生活支援のあり方として、障害の受容などの障害を持つ人の心理や環境などの背景にも配慮した介護の視点を身につけるため、障害や症状が日常生活に及ぼす影響と必要な生活支援を理解する。さらに、社会的な視点から、自立支援に向けての地域のサポート体制や多職種協働のあり方、家族への支援についても学習する。	
	こころとからだのしくみⅠ	心理学の諸理論に基づき、こころの側面を理解する為に根拠となる知識を習得する。また、こころの側面から利用者の状態を学び、その状態がどのような要因が起因しているのかを理解する。	
	こころとからだのしくみⅡ	「からだのしくみとはたらき」について、系統的に学習し生体の構造・機能について知識を深め、人間理解や介護技術の根拠となる「からだのしくみとはたらき」を理解する。	
	こころとからだのしくみⅢ	こころとからだのしくみⅠ、Ⅱの学習を基礎として生活支援技術の根拠となる基礎的な知識を習得する。	
	こころとからだのしくみⅣ	こころとからだのしくみⅠ、Ⅱの学習を基礎として生活支援技術の根拠となる基礎的な知識を習得する。	
医療的ケア	医療的ケアⅠ	医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する。	
	医療的ケアⅡ	喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する。	
	医療的ケアⅢ	安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する。	

学校法人光星学院 設置認可申請に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
八戸学院大学短期大学部					八戸学院大学短期大学部				
幼児保育学科	100	—	200		幼児保育学科	100	—	200	
ライフデザイン学科	0	—	40		ライフデザイン学科	0	—	0	ライフデザイン学科廃止予定
<u>看護学科</u>	0	—	0		<u>介護福祉学科</u>	40	—	80	
計	100	—	240		計	140	—	280	
八戸学院大学					八戸学院大学				
ビジネス学部					ビジネス学部				
ビジネス学科	—	—	240		ビジネス学科	—	—	160	平成30年4月学生募集停止
地域経営学部					地域経営学部				
地域経営学科	80	—	80		地域経営学科	80	—	320	
(平成30年度開設)					(平成30年度開設)				
健康医療学部					健康医療学部				
人間健康学科	80	—	320		人間健康学科	80	—	320	
看護学科	80	—	240		看護学科	80	—	320	
計	160	—	880		計	160	—	1,120	